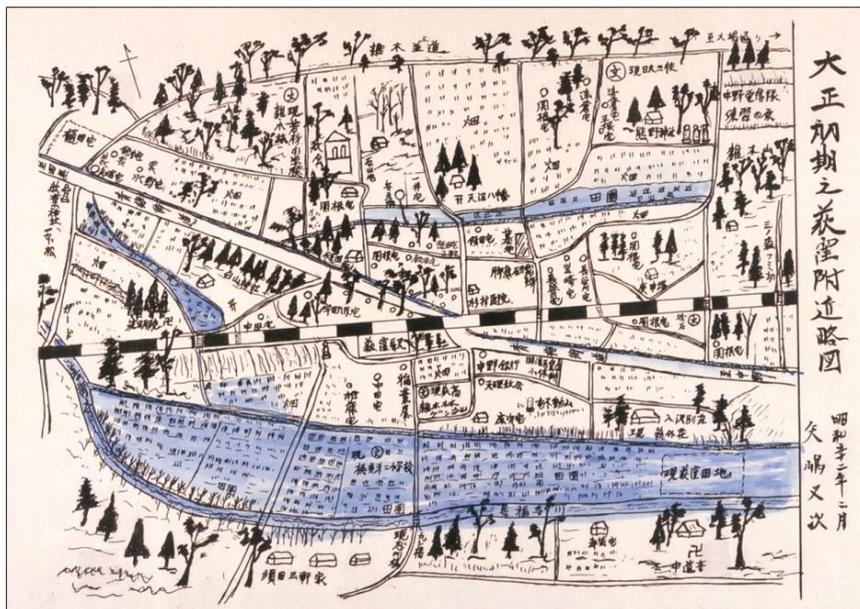


荻窪まちづくりシンポジウム

～荻窪のまちづくりの歴史を学び

これからの荻窪まちづくりを考える～

実施報告書



支えあい共につくる
安全で活力ある
みどりの住宅都市
杉並

平成26年2月

目次

1. 開催趣旨・目的	1
2. 実施概要	1
3. シンポジウム内容	2
4. 第一部 基調講演概要	3
5. 第二部 パネルディスカッション	4
6. 来場者アンケート結果	9

1 開催趣旨・目的

本シンポジウムは、荻窪のまちづくりの歴史を学ぶことで、荻窪まちづくりの推進と機運醸成を図ること等を目的に開催する。

基調講演の講師には、『井荻町土地区画整理の研究』の著者であり、幼少期から高校生までを当時の杉並区東荻町で暮らした高見澤邦郎氏を迎え、昭和初期に内田秀五郎氏によって行われた旧・井荻村一帯（区北西部）の土地区画整理事業等、荻窪のまちづくりの歴史と現状を学ぶことで、これからの荻窪まちづくりを検討する。

2 実施概要

① 日時：平成26年2月9日（日）14:00～16:30

② 場所：タウンセブン8階 第1,2,3会議室

③ 参加者数：94名

④ プログラム：



1 開会あいさつ（杉並区副区長 菊池 律）	14:00
-----------------------	-------

2 第一部 基調講演『荻窪のまちづくりの歴史を学ぶ』	14:10
----------------------------	-------

●講師

高見澤 邦郎 氏（首都大学東京名誉教授、荻外荘周辺まちづくり懇談会会長）

～休憩（10分）～

3 第二部 パネルディスカッション	15:10
-------------------	-------

●コーディネーター（進行役）

高見澤 邦郎 氏

●パネリスト（発言者）

岡部 明子 氏（千葉大学大学院工学研究科教授）

倉田 直道 氏（工学院大学教授）

長瀬 久子 氏（荻窪東町会会長）

矢澤 規充 氏（東京商工会議所杉並支部荻窪ブロックブロック長）（50音順）

4 閉会あいさつ（杉並区都市再生担当部長 門元 政治）	16:30
-----------------------------	-------

3 シンポジウム内容

(1) 開会あいさつ【要旨】(副区長 菊池律)

区では、平成 24 年に策定した基本構想を踏まえて、荻窪駅周辺のまちづくりを進めるため、多くの区民の皆様にご参加を頂きながら、アイデアコンペ等の取組を重ねてまいりました。そして、昨年 6 月には、地域住民の方々によって「荻窪まちづくり会議」が設立され、荻窪駅周辺のまちの将来のあり方について熱心な話し合いが続けられているところです。

荻窪駅周辺のまちづくりを考える上で、少子高齢化への対応、首都直下型地震への備え、地域活性化やにぎわい創出など、大切な課題は様々にありますが、それに加えて、地域のまちの歴史を振り返ることも大切なことだと思います。

例えば、荻窪駅の周辺におきましても、内田秀五郎氏のご尽力された区画整理により道路が整備された整然としたまちがある一方で、幅員 4m 未満の狭あい道路が多く存在するところもあります。また、荻窪駅の南に目を転じれば、区が土地を取得し、公園としての整備を検討している荻外荘を始め、大田黒公園や角川庭園など、由緒ある歴史的建築物や屋敷林が風格ある景観を形作っている街並みもあります。

荻窪駅周辺のまちづくりの歴史をたどり、現在のまちの姿を知り、そして、将来のまちのあり方を思い描く。そのきっかけとしていただくため、本日、このシンポジウムを主催いたしました。シンポジウムの第 1 部では、都市計画の専門家であり、旧・井荻町の土地区画整理事業の歴史についても詳しい首都大学東京名誉教授の高見澤邦郎先生からご講演をいただきます。そして、第 2 部では、高見澤先生に進行役をお願いして、まちづくりや地域に精通されていらっしゃる 4 名の皆様をお招きしてパネルディスカッションを行います。荻窪駅周辺のまちづくりを考える上で、貴重なお話がお伺いできるものと期待しております。

4 第一部 基調講演

講師：高見澤 邦郎 氏（首都大学東京名誉教授、荻外荘周辺まちづくり懇談会会長）

《講師プロフィール》

○1942年杉並区生まれ

○専門分野：都市計画、特に市街地整備計画

○主な活動：これまで、日本建築学会理事、日本都市計画学会理事等を歴任。

研究活動のほか、いわき市豊間地区の復興も含め、各地での市民まちづくりの支援活動を行っている。

【講演の概要】『荻窪のまちづくりの歴史を学ぶ』

1. 杉並区の形成史

- ・明治後半まで純然たる農村だったが、20世紀に入り関東大震災を経て、住宅都市としての性格を強める。

2. 近代のまちづくり方策

- ・戦前の「街」形成には、①「農道が広がり街を形成」、②「山林原野を購入し開発」、③「土地を提供し合う土地区画整理」の3タイプあり、耕地整理や区画整理は③にあたる。

3. 井荻町土地区画整理事業の概要

- ・井荻町（882ヘクタール／大正14年～昭和10年）の事業は、杉並区内で最初にして最大のものであり、全国でも戦前最大規模であった。

4. 内田秀五郎氏が牽引した土地区画整理事業とその関連事績

- ・貧しい近郊農村の収入増を図り、貯蓄・教育を振興し、やがて来る都市化に備えた人物で、内田秀五郎氏は井荻町長から東京都都議会議長を務めた。
- ・土地区画整理事業を牽引したほか、貯蓄組合（銀行）や井荻町営水道も設立し、中島飛行機（後の富士重工）を誘致するなどの功績がある。
- ・また、善福寺公園を風致地区として民衆の力で緑を守ろうと保全整備に尽力した。

5. 歴史をたどって今を知り、未来を思い描く／荻窪というまち

- ・街の風土、風格として伝承されるもの、あるいは、我々の心の底にある荻窪の〈良好な郊外住宅地〉という心象風景が、今後のまちづくりを考えるうえで関係がある。

おわりに：地域の過去を知ることの意味は？

- ・過去を知り、その歴史の上に今があることを知る。そして、その過ぎた時間の先に未来があることに思い致すことが大切ではないだろうか。

以上



5 第二部 パネルディスカッション

●コーディネーター（進行役）

高見澤 邦郎 氏

●パネリスト（発言者）

岡部 明子 氏（千葉大学大学院工学研究科教授）

倉田 直道 氏（工学院大学教授）

長瀬 久子 氏（荻窪東町会会長）

矢澤 規充 氏（東京商工会議所杉並支部荻窪ブロックブロック長）（50音順）



【パネルディスカッションの概要】（敬称略）

■高見澤—— まずは各パネリストから荻窪という街についてお話いただきます。

～荻窪の魅力と交通や駅周辺環境の課題～

■長瀬—— 荻窪の魅力は、日常の買い物がしやすく、荻窪駅からの交通の便が良いことです。また歴史のある神社仏閣、屋敷林が沢山あり、善福寺川が流れているために自然も豊かです。

問題点としては、車や自転車の交通量が多く、青梅街道や環状八号線のバイパス道路として、周辺道路が混雑を極めていることです。車や自転車から歩行者の安全を守れるよう、規制を含めた道路整備が必要だと思えます。

また、駅の南北を行き来するための歩道橋、駅地下構内、東地下道はどれも道幅が狭く、不便で危険です。そこで地下道を拡張し、歩道と自転車道を分け、明るい清潔な道路にすることと、エレベーターの設置を望みます。また駅構内を広くして、スムーズな南北通行ができるようにすれば、ゆとりのある空間が生まれます。

そして駅には駅周辺地域の案内図や商店の載ったパンフレットを置いたり、初めて荻窪を降りた人にも一目でわかる案内板を設置したりすれば、乗り換え客にも荻窪の具体的なイメージが広がると思えます。

～荻窪の商業をPRする取り組み～

■矢澤—— 荻窪は非常に住みやすい良好な住環境にありますが、地域にお住まいの方々は、荻窪の駅周辺で消費はせず、交通の便が良いので、都心や吉祥寺の方に流れています。そのような状況を踏まえ、商工会議所では荻窪のPR不足ではないだろうか、と考えています。

各地域の地域間格差が非常に激しい時代になってきている中で、荻窪駅1日の乗降客数は24万人です。いかにして取組、商売にしていくかということが1つの重要なポイントではないか、と思っております。

～荻窪らしさを考える～

■倉田——

私が最初に荻窪を訪れた際、地下街の食品売場で有機食品の売場が非常に広がったのを見て、食の安全ということに対して非常にこだわりをもっており、生活の質を向上させていく上での要素は、既に荻窪はもっていると感じました。

私は、車に依存せずに暮らせる街であることが非常に大事だと思います。人々の交流は、車に依存したら実現しにくいからです。街を歩く中で人との交流が生まれ、それを通じて新しい活動が生まれます。

学生達は荻窪の街について、駅を中心に特徴のある商店街が広がっており、そこに荻窪らしい生活を感じることができると言います。その可能性をどう引き出していくか。また、歩く環境をどれだけ安全、快適なものにしていくかということが課題だと思います。

また、多世代の人達の居場所づくりや場所の提供について考えています。特に、居場所づくりは単純に作れば良い訳ではなく、活動を伴っていないと良い場所になりません。

駅の問題は以前行われた公開アイデアコンペの中で、駅自体を象徴的なものとして今までになく大掛かりなものにする案と、駅にそこまで求めないという2つの案がありました。

私は、いきなり新しい荻窪らしさを求めると、今持っている荻窪の良さを失うと思っています。ただし、南北を安全に暮らしやすく行き来できる環境は必要だと感じます。

荻窪は荻窪にしかないものを求めるべきです。街自体が地域の色々な暮らしの質やコミュニティの支援機能を備えることが大事だと思います。その結果、世代を超えて皆が気持ちよく暮らせる街になって、自然と荻窪らしさが見え、色々な人達はその魅力に引かれて街を訪れるようになって感じています。

～広く、長期的に見るまちづくり～

■岡部——

まちづくりには大きく2つのアプローチがあると思います。1つは、今そこで暮らしている人が考えている課題を解決し要望に応える方法。もう1つは、広く、長期的な視野で見て、アクションを起こす際には戦略的に小さなことから仕掛けていく、着眼大局着手小局（think globally act locally）のやり方です。

副区長は先ほどの挨拶で、少子高齢化に言及されました。大きく局面が転換する際に、今の世代の要望だけ見ていけば良い訳ではありません。長期的に先を見通して、よりよい未来のために今どう行動するべきか。長期的に展望するためには、過去を知ることです。その点で荻窪の街づくりの歴史を学び、これからの街づくりを考えるということは素晴らしいと思います。

また、広く長期的にみるということは、例えば、世界の中で荻窪や杉並とは

何かを考えてみることです。歴史をみんなで知り共有した上で、今何ができるか、また、世界の中の荻窪を考えてみてはどうでしょうか。

■高見澤——

ありがとうございます。今までのお話を受けて、ここからは会場の参加者から議論してもらいたいテーマ等がありましたら、お伺いします。

(参加者から質問や意見等がありましたが、ここでは記載を省略します)

～ハード面で駅前整備を考える～

■長瀬——

南口に関してのにぎわいを考えるならば、駅前空間の創設が望めます。例えば地上には、緑と芝生のある綺麗に舗装された広場、その地下空間には駐車場や駐輪場そして防災倉庫の設置を望みたい。明るい雰囲気のある広場にはいつも人々が集い、各種イベントやミニコンサート等で荻窪駅周辺が活性化し、電柱の地中化や歩道の舗装等の整備がさらに進めば、南口はもっと楽しめる場所に再生されると思います。そして、周辺にある文化的資産や史跡を散策出来る地域として、荻窪は今以上に落ち着いた街でありながら、世代を超えた人々の賑わいが広がるのではないのでしょうか。

北口は、駅近くに交通量の多い青梅街道が通っています。エレベーターのある陸橋も必要ですが、それだけでは街全体の変化はあまり望めません。やはり、時間と費用そして必要性など多くの問題がありますが、駅周辺地域だけでも青梅街道を地中化するか、もしくは幅の広い地下通路があれば周辺地域の商店街の活性化に繋がると思います。

～小さな取り組みからにぎわいが広がる～

■矢澤——

例えば高円寺、西荻なども最初は、若い人達がいづつか店を出して、そこで小さなイベントを広げていきました。今荻窪では、荻窪音楽祭ができましたが、続いて出てくるものはありません。次に続くイベントを具体的にどうやるかを今後考えなければいけません。ただ、いきなり広く皆さんに参加してもらうことは難しい。にぎわいを創出するには、若手が意欲を持ってやる人を中心とし、小規模から何かをしかけていく努力が必要ではないかと思っています。

空間的なことと言えば、今、区で再編が進められている公共施設、例えば税務署や旧若杉小学校などの場所をうまく利用することはできないでしょうか。

実は今、荻窪まちづくり会議というものが議論をしており、その中のご意見として、そういった施設に日本一の子供の施設を作ってはどうかなど、非常に有益なご意見を頂きました。

例えば、ショッピングモールを持ってくるのではなく、少子高齢化時代に合ったような、そこで子供とお年寄りの繋がりがもてるような施設をつくるな

ど、色々と考えることができると思います。

～歴史の痕跡を受けとめて先へ進む～

■岡部

最近の区画整理は、過去の痕跡を消すようなものが多く、区画整理されたために歴史が見えなくなっているところが非常に多いです。過去を否定するのではなく、それも歴史の1つとして捉えて次に進んでいく、つまり、肯定するという意味ではないのですが、事実として消さないようにするというスタンスが大切なのかなと思います。

井荻に関して言うならば、区画整理がされる前、元々の土地の持っているパターンと無関係に中央線が敷かれたことによる歪みが、今の青梅街道と中央線の関係に残されています。そういうひずみがたまっている所は将来に向けて何かやっいていこうという時にエネルギーになる場所だと言えます。

様々な歴史が不整合しながらも重なっていることを受け入れた上で、先に進むことが必要なのではないかと。

また、荻窪という街は、昔はもっと緑が多くて、もう少しのんびりゆっくりできるような場所がある街でした。「古き良き日本の文化人が住んでいるような郊外」が1つのイメージなのかなと思います。それに合った駅前とは何だろうか。あるいは落ち着いた郊外イベントとは何か。を考えてはどうでしょうか。

華々しいアクションではなくても、中央線の他の駅と異なる魅力が染み渡るように広げていくことが必要ではないかと。と今日の話聞いて思いました。

～荻窪の将来像をみんなで描いていく～

■倉田

荻窪には非常に色々なご意見の方達が暮らしておられるという気がします。1人1人にとっての生活の質や暮らしの豊かさがある訳ですから、多様性、選べるということが非常に大事な要素になってくると思います。一律なものではないので、それを荻窪で実現していこうとすると、課題や歴史を手掛かりに、住民同士で主体的になって街の将来を考え、これからの荻窪の姿を、まちづくり会議やこういうシンポジウムで皆さんと描くことは非常に大切です。

中央線の荻窪以外では一律、鉄道を高架にしているので荻窪は置いていかれている印象が否めないかもしれません。しかし一方で、荻窪駅も高架になってしまうと、一律な駅前、駅というものが中央線に作られて、荻窪はその内の1つに過ぎないということになったかもしれません。現状の駅の問題を皆さんで考えることで、荻窪らしい駅の姿が見えてくるのではないかと考えています。

荻窪における人の移動、交通のあり方を考えることは大事だと思います。次の時代を考えると、車に依存しないで気持ちよく暮らせる街を実現することを考えるだけでも、荻窪の次の時代の姿が見えてくるのではと思っています。

色々な課題や街の歴史を手掛かりに、皆さんで荻窪のこれからの街のあり方を一緒に決めていくことが非常に大事だと思っています。既に荻窪で

は、荻窪まちづくり会議や、地域にお住まいの方達が主体的に自分たちの街の将来を考えようという動きが出てきています。こういう機会を積極的に活かし、この輪を広げていくということが大事なのではと思います。

■高見澤——

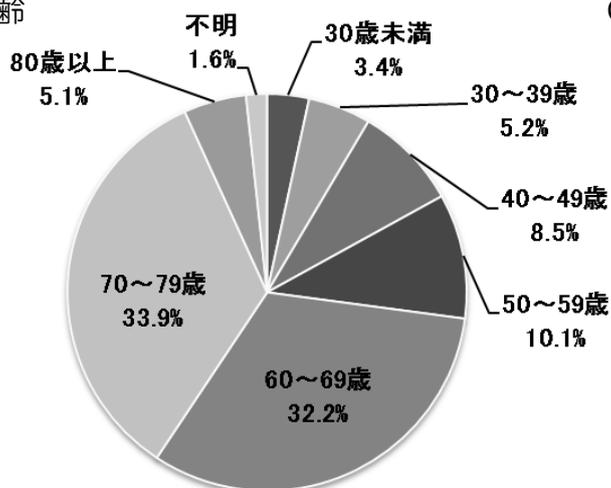
今後のまちづくりの中で、本日のシンポジウムで話された観点などを主催者の方で是非、整理して頂けると良いと思います。私自身としても実りのあるディスカッションでした。どうもありがとうございました。(拍手)

6 来場者アンケート結果

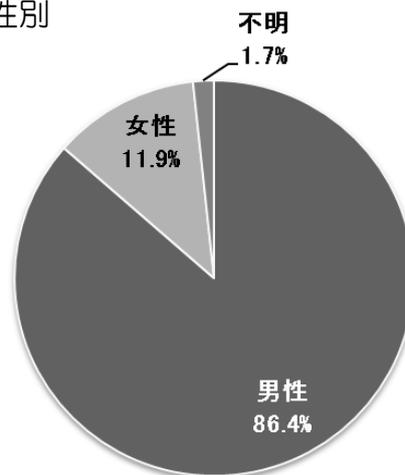
- 対象者：94名
- 回答者数：59名
- 実施方法：受付時配布、退場時に回収
- 回答方法：記入式

(以下、Q1～Q7 回答数：59件)

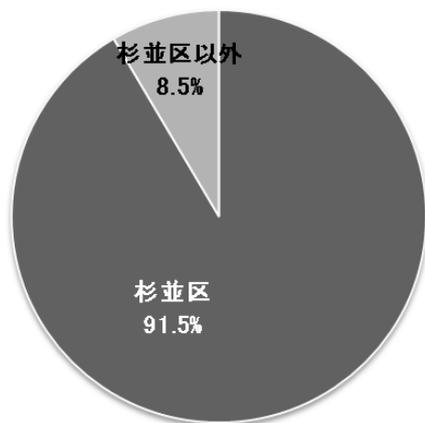
Q1. 年齢



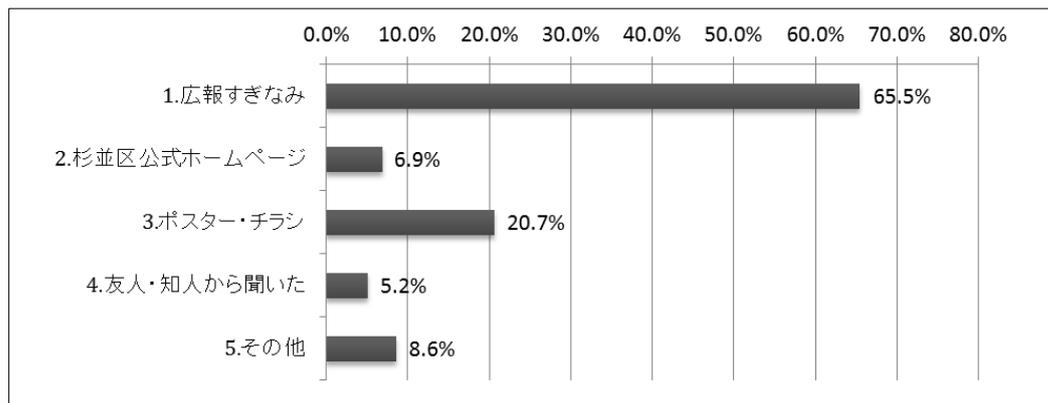
Q2. 性別



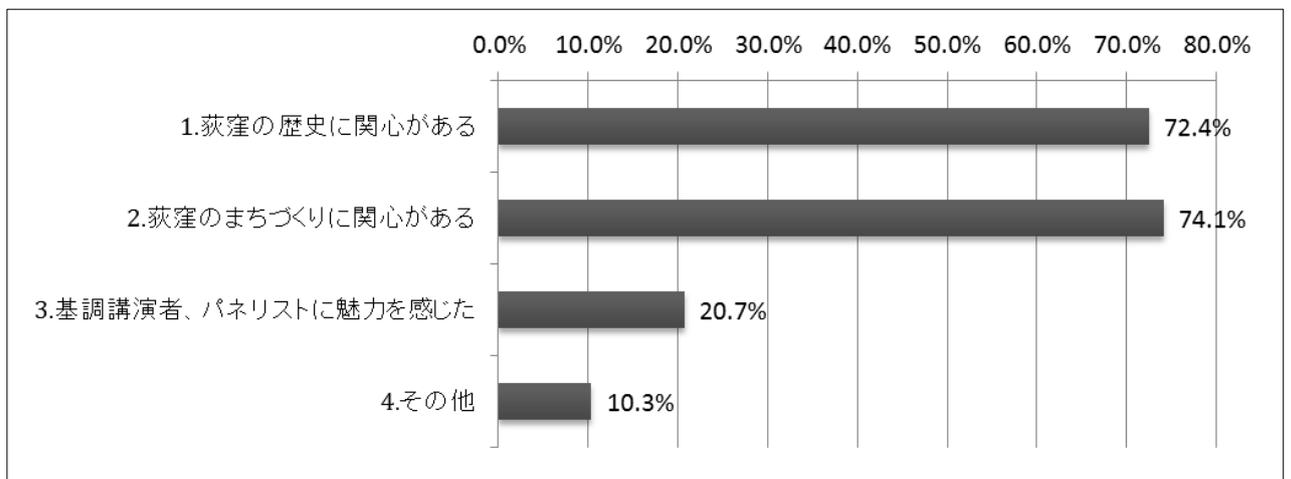
Q3. 住まいの場所



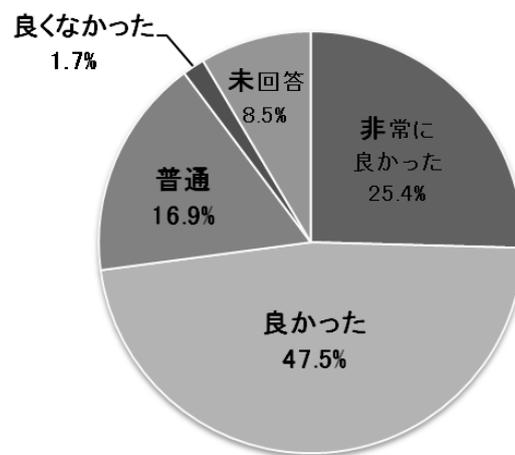
Q4. このシンポジウムを知ったきっかけ。
(複数回答)



Q5. このシンポジウムへの参加理由（動機）
（複数回答）



Q6. シンポジウムの内容



Q7 シンポジウムの感想や今後の荻窪まちづくりに関して（主な意見）

（一部抜粋）

- 世界の荻窪を考えるとというのが面白い。過去、歴史を考えれば未来が見えてくるという話がすごく良かったです。
- 「荻窪まちづくり会議」にとって心強いヒントが多かったです。
- 本日のポイントである「歴史」という観点から「荻窪」というまちがよく理解出来ました。但しこれからのまちづくりを考えて行く時に将来をみすえて若い世代の人たちの意見を聞きたいと考えます。1つ提案として「荻窪」というまちを言い表す個性あるキャッチフレーズをつくったらどうかと思います。
- 以前はラーメンの街ということで全国区になった荻窪ですが、今は没个性的でこれと言った特徴がないように思います。ハード的には、南北分断の解消や歩行者が回遊できる場所が欲しいです。ソフト的には世界や日本の中での「荻窪と言えば〇〇だ」と言った、とんがったコンセプトのコンテンツを作って欲しいです。
- 荻窪駅とその周辺を再開発して、区外からも人が集まってくるようなイベントや施設を作って、にぎわいと活気のある街づくりを、思い切った広い視点からめざして欲しいです。
- 自転車と歩行者が楽しく、安全に共存できるように、駐輪場の整備と自転車利用者への交通ルール順守、マナー向上の教育・啓発活動を積極的に進めて欲しいです。
- 再開発が進んだ中野駅、相変わらずにぎわいのある吉祥寺駅の間にある荻窪駅がうもれないよう、今、取り組んで行かなければ手遅れになることを痛感。今回のシンポジウムを1つのきっかけにして、荻窪のまちづくりを積極的に進めて欲しいです。キーはにぎわいの創出と文化の確保でしょうか。
- 荻窪に60年住んでいながら区画整理の歴史について何も知りませんでした。勉強になりました。
- 地域の歴史をふまえることで、住んでいる人達の気持ちを1つの基盤にすることができると思います。

表紙：矢嶋又次画「大正初期之荻窪附近略図」(昭和五十二年二月)

所蔵：杉並区立郷土博物館

[事務局／問合せ先]

〒166-8570

杉並区阿佐谷南 1-15-1 杉並区役所西棟 3階

杉並区 都市整備部 まちづくり推進課 荻窪まちづくり担当内

TEL：03-3312-2111 (内線 3382)

FAX：03-3312-2907